

別紙3 テーマ3の提案に関する施策推進状況

テーマ3：地域ぐるみで学校を支援しよう ～学校支援地域本部の取組を生かして～

| 提案項目 | 提案要旨 | 回答課 | 施策推進状況 |
|-----------------------------------|--|---------------|--|
| 1．学校支援地域本部設置の取り組み情報を積極的に公開する | 県内各地域で実践されている学校支援地域本部の活動情報を閲覧できるようになると、活動目標や参考にできるところが増えると思われる。特に平成20年度は初期の段階であるため、新たな情報を常時供給していくことが必要だ。 | 人権・社会教育課 | <p>本事業は、県内158小学校、70中学校を中心に行われ、のべ10万人強の支援ボランティアとして地域の人々が参画しています。</p> <p>各市町村教育委員会のホームページUP、事業紹介等を積極的にお願いしているところです。県としては、全戸配布の県民だより掲載に加え、ホームページ上で研修会等の様子をUPする予定です。</p> <p>また、年度末に作成する事業報告書を次年度のテキストに活かしてもらえるような形で作成し、全実施校配布とします。</p> |
| 2．学校支援地域本部事業の運営に関する情報を共有できる仕組みが必要 | 学校ボランティアや特にコーディネーターの役割を担う人たちは、共通の悩みや試行錯誤を繰り返しながら実践に努めておられる。そうした活動の中で自身の取り組み上の悩みや不安を共有することで連帯感につながるので、今後のネットワーク化が必要だ。 | 人権・社会教育課 | <p>現在県内で活動しているコーディネーターは350人、地域で活動するコーディネーターが情報不足とならないよう、県実施のコーディネーター研修会の折には全県的な視野で情報提供を行っています。</p> <p>また、本年度事業がほぼ軌道に乗ったと考えられる11月を目途に県内を4ブロックに分け、情報交換会を実施し、コーディネーター間の情報共有を提供する予定です。</p> |
| 3．地域の教育的な活動をプログラム化する | 自主防災や防犯活動とスクールガードのボランティア活動が単体のもので終わるのではなく、学校を拠点に行われることで、子どもを地域で育てる体験プログラムにできると考えられるので、そのためにも地域の学びの場をつなぐ役割を果たす団体が必要だ。 | 安全・安心まちづくり推進課 | <p>当課は、地域の自主防犯・防災活動を一体的に支援するため、平成19年11月に設置され、啓発、講演会の開催、リーダー養成、情報提供などの支援活動を実施しています。</p> <p>災害や犯罪から地域の子どもの安全を守るため、自治会、地域の各種団体、学校、市町村、警察、消防などの関係者が連携して取り組む必要があります。</p> <p>先進事例として、上牧町の西大和6自治会連絡会があります。「防犯・防災懇談会」を毎年開催し、6自治会、PTA、老人会、民生児童委員、幼稚園、小学校、中学校、上牧町、警察、消防など地域の関係団体が参加し、意見交換を実施されています。</p> <p>当課では、こうした取り組みを他の地域でも推進していただくため、メールマガジン、ホームページ、講演会等で事例紹介しています。平成21年10月から、地域で先進的に自主防犯・防災活動を実施されている方々に「安心・安全まちづくりアドバイザー」として委嘱し、他地域に出向き先進事例を紹介していただく取り組みも実施します。</p> |